

私の被害者は家族

Y・F

はじめに、私が受刑生活を送らなければならなくなった理由は、飲酒運転、無免許運転をしたからです。そこに至るまでには色々な事が重なり、その結果、私自身が罪を招きました。色々な罪がありますが、交通事故といった罪は、誰でも犯してしまうかもしれない罪であると思います。飲酒運転による事故が世間でも大きく取り上げられ、ニュースなどになっている中で、私は、その罪を犯してしまいました。しかし、今回は、本当にたまたま相手の人がおらず、ケガをさせた、死亡させたといったことにはなりませんでしたが、今、受刑生活を送っていく中で、もしあの時の行動で、誰かの命を奪ってしまうようなことになっていたらと思うとぞっとします。私は、途轍もなく今より大変なことを引き起こそうとしていたことになり、逆に、それくらいのことで刑務所に来ることなどはないと思っていた部分も正直ありました。

今更ですが、自分でも自分が恐ろしく思えました。そんな、後悔、後悔の生活の中で、改善指導といった時間があり、その中で、15年前にある交通事故で自分の娘さんを亡くされたという方からお話を聞く機会がありました。

話を聞いていくうちに、胸が苦しくなり、私のような身勝手な人間がしてしまった行動の為にその4歳の娘さんは、この世に生まれてたった4年間しか生きられず、とても、とても尊い命、いえ大きく言えば、その娘さんとその家族全員の人生を、この先あったであろう楽しい人生を奪い狂わ

せることとなってしまう、自分がやってしまったことではなくても、そのお母さんの顔を見ているだけでとても苦しくなりました。あと一步で、私もその加害者と同じ人間になるところでした。娘さんが亡くなってから15年という月日が流れてはいますが、そのご家族は、15年前で止まったままなのかも知れません。あの時、こうしていれば、あと5分違っていればと残された人たちは、自問自答の日々が続いたことでしょう。いえ、現実には今もなお続いているのかも知れません。しかし、現実には、どんなに辛くても、涙しながらでも生活していかなければならないということ強く強く感じ、言葉ではいい表せませんでした。私は、その人の話を聞き、私にも子供がいますので、自分のことに置き変えてみて、もし自分の子供が誰かの身勝手な運転の為に命を落とすようなことになったらどうするだろうと思いました。私なら、きっと気が狂ってしまおうと思いました。そして、その事故を起こした相手を殺してやりたいと強く思うでしょう。そんなことをしても、亡くなった人が返って来る訳ではありませんが、きっと間違いなく、同じ目に合わせてやりたいと思うだろうと思いました。しかし今は、間違いなくそう思われる立場であろう人が、今の私です。その立場、加害者になってから気づくのでは本当に遅いのです。今回、私に相手の人はいませんでしたが、私の被害者となったのは、私の大切な大切な家族でした。被害者は、ケガを負った、命を奪われた人だけとは限りません。周りの人や家族だって大きな被害者になってしまいます。被害者、加害者、どちらにもなりたくはありません。そういった気持ちは、受刑者になる以前にも持っていました。私には関係のないこと、私には起こる

はずのないこととと思っていました。すべて、他人の話だと……

しかし、情けないことに、今、確かに罪を犯している自分がここに存在しています。ここへ来て、何度も何度も時間が戻せたらと考えたことか知れません。しかし、二度と戻すことはできません。その代わりに、これから先の人生で同じ過ちをしない為には、自分は何を思い、何をしていかなければいけないのかをしっかりと考え、実行していかなければなりません。私には、無くなってしまった物もありますが、この先の人生という時間は残されています。その時間の中で、どのように自分の罪を償っていくのかが大きな課題です。みんな、それぞれに大切に思い思われる人たちの尊い命なのだということ、壊れても直せる物ではなく、なくなってしまう命だということを忘れないようにしたいです。人を幸せにすることは難しいけれど、不幸にすることは、あっという間です。人様の命、幸せな日常を奪うことのないよう、交通ルールというものがなぜあるのか、そしてまた、そのルールをなぜ守っていかなければならないのか、その前に一人の人間として、しっかりと考え生活していきたいと思うと同時に、世の中から、交通事故で命を落とす人たちが、一人でも減ることを願って生活をしていける人間になりたいです。命を奪う一人にはなりたくないと強く思います。この受刑生活、亡くなった人たちの命を無駄にしないよう、重く受け止め、自分なりに一生懸命、償いの意味を考え行動し続けていきたいです。